

# 序

羊土社より2016年に上梓させていただいた“大圃流ESDセミナー”は、私が執筆をした思い入れのある一冊です。当時の医学書では考えられない斬新なタイトルとデザイン（野々村さんといふ小さな巨人の新人担当者の暴走を止められなかった）、実用的な内容（付度なく好きなこと書いただけ）と相まって、専門書としては驚くほどに売れました。

ESDをやらない先生や看護師さんたちまで購入（あまりにくだけていたので医学書ではなくただの読み物だったから）していただき、サインをするのが上手くなったのは間違いありません。

“大圃流ESDセミナー”は、私の施設にトレーニングに来た先生たちに**口頭や図示で指導していた内容をそのまま本にしよう**というコンセプトでした。

一断じて、毎回同じ話や絵を描くのが面倒だから、ではない—

ESDの場合、ある程度の内視鏡経験者の先生に指導しますが、その先生たちのラーニングカーブって実際は大きなばらつきがあります。多くの先生を指導してきて感じたのは導入が大切だなど、センス云々いう人がいますが、**それより最初の入り口でどうやって内視鏡に携わってきたのか**、っていうが大きいんですよね。そこで、本当にこれから内視鏡を始める先生たちのために、**内視鏡を始めるのにまず手に取る本、内視鏡の手技を網羅的に学べる本**があったらいいなと今回の執筆に至りました。二匹目のどじょう狙いか、と思われるかもしれません、既に姉妹書“大圃流消化器内視鏡の介助・ケア”でどじょうはしっかり獲得してます。（やり手野々村が逃すはずがない。）しいていうなら、3匹目です。

今回は羊土社の黒幕こと野々村より新たな刺客中田さんをご紹介いただきました。

共同執筆とはなっていますが、私の元で同じスタイルで学んだ先生たち、今一緒に働いている先生たちのみで書き上げております。僕の考え方なのですが、同じスタイル、流儀の先生で執筆することで内容に一貫性が出るからです。各執筆者が若手の教育者であり、内視鏡初学者にいつも指導する内容を盛り込んでくれています。そして消化管のみならず胆膵領域まで幅広くカバーした、幅広い内視鏡入門書となっております。あくまで導入本であり、この本ですべてを完結できるものではありません。個々の項目が物足りないのは百も承知です。だから“大圃流ESDセミナー”とか“胆膵EUSセミナー”を買えばいい。

ただまずは手に取ってもらって、その基礎を学んでもらえればと思っています。**手技を中心**に**写真や動画が豊富**なのでとても読みやすくなっています。本書と共に、内視鏡診療の世界へ是非どうぞ。

2021年10月

NTT東日本関東病院 消化管内科  
大圃 研